

名護市
議会議員

東恩納たくま

発行：東恩納琢磨 名護市字瀬高48 電話・FAX：0980-55-8587
携帯：090-9786-9471 ホームページ：www.takumahigashionna.jimdo.com

議会報告第11号

名護市議会、国連へ調査依頼を決議！

沖縄差別を国連に訴える

去る3月議会で、名護市議会は「米軍基地集中と新基地建設強行による沖縄県民の人権侵害・差別について、その実態を国連人権高等弁務官に調査を求める決議」を可決しました。この国連への直接の働き掛けは、ここまで沖縄の民意が踏みにじられている状況に対して、沖縄の自決権を求めるには国連に訴えるしかないのではと、私が提案し、実現したものです。長いですが、全文を記載します。

第二次世界大戦中、日本で唯一地上戦に追い込まれた沖縄は、熾烈な戦いの末、廃墟となり、多くの人命が失われました。さらに、1952年のサンフランシスコ講和条約発効で、沖縄は日本から切り離され、27年間もアメリカ軍政下におかれ人権が無視され、苦難と忍従を強いられました。今年、戦後70年を迎えますが、いまだ、日本国土面積の6%しかない狭隘な島、沖縄に在日米軍専用施設面積の74%が集中しています。そして、現在では沖縄

島の大多数が反対する中、日米両政府は国際的保護動物で、国指定天然記念物のジュゴンがすむ生物多様性に富んだ大浦湾・辺野古の海を埋め立てて海兵隊の新しい基地建設を強行し、環境破壊と人権侵害が行われています。名護市では、1997年の住民投票で新基地建設反対が過半数を占め、2010年1月に「辺野古の海にも陸にも新たな基地は造らせない」とする市長が誕生し、2014年1月に再選されました。同年9月に行われた名護市議会議員選挙でも基地建設反対の議員が過半数を占めました。また、2014年11月に行われた沖縄県知事選挙では、新基地建設を認めないとする翁長雄志候補が民意を無視して埋め立て承認手続きを受け入れた前知事に10万票の差をつけて当選し、同日に行われた名護市区議会議員補欠選挙、続く12月の衆議院議員選挙においても、米軍の新基地建設に反対する候補者が全て当選し、沖縄の「新基地建設反」の民意は明確に示されています。

しかし、総理大臣や防衛大臣、外務

大臣はその沖縄の民意を代表する翁長雄志知事の面会の申し出を拒否し、政府の意に沿わない人とは会わないという態度で沖縄県民を差別視しています。さらには、キャンプ・シユワーブゲート前で、新基地反対の座り込みをしている県民や、埋め立て予定地の海上でカヌーなどにより抗議行動をする非暴力の市民を、沖縄県警機動隊や海上保安庁による暴力的な過剰警備によりけが人も統出しています。その中で、抗議行動をするリーダーの一人が、米軍の警備員により突然明らか理由もなく、不当拘束・逮捕されるということまで起こっています。

名護市議会としては、今なお続く日米両政府の沖縄県民に対する構造的差別による人権抑圧に対して強い憤りを持っており、絶対に容認することにはできません。

よって、沖縄の人権と自己決定権を保障するために、強行されている新基地建設と沖縄県民の人権侵害の実態を、国連人権高等弁務官が現地にて調査することを要請いたします。

平成27年3月26日

宛先・国連人権高等弁務官

3月議会 たくま一般質問

2015年3月議会での東恩納琢磨の一般質問概要です。

質問①戦後七十周年を迎えるについて

市長は「戦後の沖縄がたどった苦難な歴史を、次の世代へ正しく伝えていく責任がある」とおっしゃっています。「戦後70年の節目に歴史を学ぶ市民参加型のフォーラムを名護市で開催することはできませんか。

市回答

現在、名護市教育委員会において、「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」が毎年実施されており、そのほかにも「名護・やんばるの沖縄戦」の発刊、写真展の開催が予定をされており、また、沖縄県では学徒隊であった方々の証言を音声化、多言語化し、さまざまな機会に活用できるよう、取り組みとすることで、市内外で戦後70年の節目に様々な取り組みが予定されており、市といたしましては、市民参加型フォーラムを開催する予定はございませんが、これらの活動に加えて毎年、慰霊の日前後に小中学校で実施されており、また、平和学習の拡充や、平和祈願祭への生徒の参加促進など、教育委員会と連携しまして次代を担う子どもたちへの平和を考える機会の提供に努めていきたいと考えているところであります。

質問②国連の人種差別撤廃委員会への書簡の送付について

国連の人種差別撤廃委員会は2010年に沖縄への米軍基地の集中についてという事で、「現代的な形の人種差別だ」と認定しています。差別を監視するために、沖縄の人々の代表者と幅広く協議を行うよう日本政府に勧告を行っています。また、沖縄の人々は「先住民族」だとして、その権利を保護するよう2014年にも勧告を行っています。その人種差別撤廃委員会に、名護市長として現在のキャンペーン・シュワープゲート前で起っている現状、あるいは大浦湾で起っている現状について書簡を送り、世界へ沖縄の現状を伝えていただけないでしょうか。

稲嶺進市長回答

東恩納議員の国連への訴えのことについてでございますが、せんだつて訪米したときも、国連に、人権関連の部門へということと訴えてまいりました。東恩納議員おっしゃるように、米軍基地の集中について、あるいは集中することによって、そこから派生してくるいろいろな事件・事故、それが現代的な形の人種差別だと言っばり認めていただいたということだと思っております。今、おっしゃっているゲート前のことであるとか、大浦湾で起こっていることとかということも、1つにはその延長線上にあるのかもしれないけれども、その件でもって人種差別というのはなかなか難しいのかと。今回、県知事も訪米をして訴えるということがございますが、やっばり訪米で一番効果的といえますか、一番訴えるべきことで共感を得られるというのは、やっばりおっしゃるような人権の問題と、それから環境の問題というのは、前に訪米したときに

一番反応を示してくれた部分なんです。そういうことで国連にも訴えていくべきだと思います。0.6%の面積に74%もの軍用施設が集中している。その結果、起こっている事件・事故が沖縄県民に対してどれだけの負担を強いているのかと。これがいわゆる人権の問題に非常にかかわる大きな問題だと受けとめておりますので、そういう観点から国連の訴えとというのは必要ではないかと思っております。

質問③ やんばる物産株式会社不明金問題について

再発防止のためにも窃盗の疑いがある従業員には告発を含めた厳格な対応をし、管理責任者の責任についても厳格に行う必要があると思いますが、いかがでしょうか。

市回答

調査を行った結果、不明金問題は、やんばる物産株式会社元従業員による窃盗ないし横領であることが結果として出ております。内容は、やんばる物産株式会社元従業員が平成19年11月から平成20年12月までの間に299回不正なレジ操作を行い、1903万5千円という多額な金銭を抜き取る窃盗ないし横領によるものと思っております。この調査結果をもとに再発防止に向け、やんばる物産株式会社管理の管理体制、当時の管理者への責任については、株主である名護市として法的側面も含めまして、どのような対応がとれるか、現在、弁護士にアドバイスを受けながら検討を進めているところでございます。

質問④ 堆肥センターの運営について

これまで堆肥センターの運営はJAが行ってきたが、どのような改善策、ひいてはコスト削減が可能ですか。品質を管理するためには人的な技術力も必要です。水分が35%以下でないとき未発酵になつてしまうというところもあります。そこをちゃんと徹底させるような品質管理を行っていただきたい。それができないときには、やはり厳しく指導もやっていただきたい。

市回答

旧堆肥センターは、施設の老朽化に伴い安定的な品質が確保できないような現状で、厳しい運営状況となっております。この状況を解消するためにも施設の改修が必要と考え、今回の機能高度化を図るための施設整備に至っております。副資材のチップ材の供給につきまして、隣接する名護林業や北部森林組合と調整を進めているところでございます。そこで安価な副資材の購入が可能となれば、1つの改善策、コストの削減につながると考えております。

源河区のほうからも地元雇用という要望がありますので、そういった人材の確保も今後考えていきたいと思えます。それから、施設の運営に当たりましては今回、施設は名護市の施設になりますので、指定管理の基本協定、年度協定、それと仕様書、業務仕様書というんですか、そういう運営の仕方につきまして名護市のほうがしっかりつくってまいりますので、その中で品質確保できるように、それと管理運営ができるように市のほうとしても十分な取り組みをしていきたいと思えます。

質問⑤ 東京オリンピック聖火宿泊記念碑活用事業

事業を実施し、地域の活力創出を支援すると思いますが、年間計画も含め、どのような取り組みですか。

市回答

「第18回オリンピック東京大会聖火リレー歩み展」と題し、当時の関係資料の写真とか、ユニホームとかトーチ等の展示会を開催いたします。来年度以降も五輪の機運を高めてもらうため、地域市民の方々に引き続き展示会や講演会を実施していきたいと思っております。また現在、聖火リレーのルート選定が未定の中、地域の方々と連携を図り、聖火リレーを再びこの地に誘致する取り組みを行うほか、東海岸の自然等を生かし、各国の競技チームが日本に慣れる経験を求め強化合宿を想定した、練習キャンプ地の誘致等、インバウンド観光促進事業も計画していきたいと考えております。

質問⑥ 光文字の点灯について

名護市東江の銭ヶ森の斜面に光文字の点灯が行われてきました。今回、20回目の節目に光文字実行委員会の解散が報じられましたが、今後の継続についての話し合いが行われているのでしょうか。

市回答

銭ヶ森の光文字は名護さくら祭り実行委員会からも助成金を支出しており、名護さくら祭りの協力行事の一環としても位置づけて実施されてきております。名護市の風物詩として定着しております光文字につきましては、その継続実施に向けまして関係団体や関係各

課と協議しながら、今後進めていきたいと考えています。

琢磨

ぜひ存続させるために、地域の思いをくみ取って話し合いを続けてほしい、産業部だけではなく連携も必要なので、教育委員会はどうか思っていますか。

教育委員会回答

教育委員会としても話し合いの推移を見守り協力をしてきたいと思っております。

質問⑦ 地域子育て支援センターの増設について

保育園に通っていない児童と、その保護者を対象とする子育て支援センターを市街地以外にも増設することはできないでしょうか。その手続等で新設するには難しいということですが、地域の支所とか公民館で、そういう子育ての悩みとか話ができる、気軽に行けるような場所というのはないのか、という要望があります。市から公民館を利用して子育て支援をするなら、子育ての専門家の派遣ができます、ということを積極的に働きかけてほしい。

市回答

各区において、また子どもたちを交えた行事なども催されているところだと思います。そういう場所もぜひ利用されながら、その部分も子育て支援の一部だと私どもでは考えておりますので、その利用も含めて子育て支援を今後拡充していきたいと考えております。

てい子トウシーさんと再会

2012年の訪米要請行動の際、現地で私たちをサポートして下さった、てい子与那覇トウシーさん（NY新沖縄民間大使、沖縄タイムス通信員、ニューヨーク沖縄県人会元会長）が、4月に来沖され、大浦湾を案内しました。

トウシーさんのお母さんは瀬嵩出身。幼いころ瀬嵩の浜で遊んだ記憶があり、大浦湾を見て「素晴らしい海。うちなーの宝！」と大変感動しておられました。海上では海保に「名刺交換しよう!」と話しかける一幕も。海保は物も言わずに逃げていきました。アメリカでは「はつきりともを言わないとダメ、琢磨さんの大きな声での発言は国境なし!」と背中を押して下さいました。バイタリティあふれるトウシーさんは、アメリカでの沖縄の奮闘を支えてくれる大きな力です。



▲ 島袋文子さん、てい子トウシーさん（右）と一緒にゲート前で

ジュゴンのぼりはためく!



▲ジュゴンのぼり・わんさか大浦パーク 5月2日から7日

5月2日、わんさか大浦パークで、鯉のぼりに交じって、「ジュゴンのぼり」が掲揚をされました。昨年まではジュゴンの棲む海を前に行いたいと、北限のチームザンとじゅごんの里が企画、わんさか大浦パークの協力を得て、5頭のジュゴンのぼりをはためかせることができました。午前中は嘉陽で海草の観察会も行いました。ご協力くださった皆さん、ありがとうございます。子どもたちが地域の自然と歴史を学ぶ機会として、このイベントを毎年続けて行きたいと思っています。来年に向けてジュゴンのぼりを一緒に製作して下さる方、また布の提供が可能な方は、ご連絡ください。来年はもっと数を増やして、大浦湾で頑張っているジュゴンたちを応援できたらと思います。

環境監視委員会への要請

「環境監視委員会」は、仲井眞前知事が辺野古の埋め立て申請を承認する際に、「留意事項」として環境保全対策の協議を要請したのを受けて設置され、2014年の県議会百条委員会では「環境保全の担保」であると確認されています。

ところが委員会は非公開で進められ、しかも9カ月遅れで開示された2回目の議事録は、委員らに配られたものから一部差し替えられていました。三月には副委員長を務めていた琉球大学の東清二名誉教授が「基地を造る結論ありきで環境保全について沖縄の研究者としての意見が通らない」と辞任。

また2014年に見つかったジュゴンの新たな食跡についてなど、必要な情報が沖縄防衛局から環境監視委員会へ提供されていなかったり、委員会からの議論が反映されなままコンクリートブロックがサンゴを破碎したりと、環境監視委員会は環境保全の担保として機能していないのが現実です。名護市議会は

1. 委員会の議事録と資料の透明性を持った公開
2. 委員による辺野古・大浦湾の調査
3. 的確な情報収集のために地元自治体や環境NGOから情報収集
4. 委員会が地元自治体と沖縄県に対して、委員会の説明および現地調査の説明を行う。

を盛り込んだ要請決議を、5月の臨時議会でも可決しました。東恩納琢磨が要請の提案説明を致しました。環境保全がなされていないのであれば、前知事の承認は取り消されるべきです。そもそも豊かな大浦湾を埋め立てて、環境保全などできるはずがありません。これからも積極的に承認の矛盾を追及していきます。